

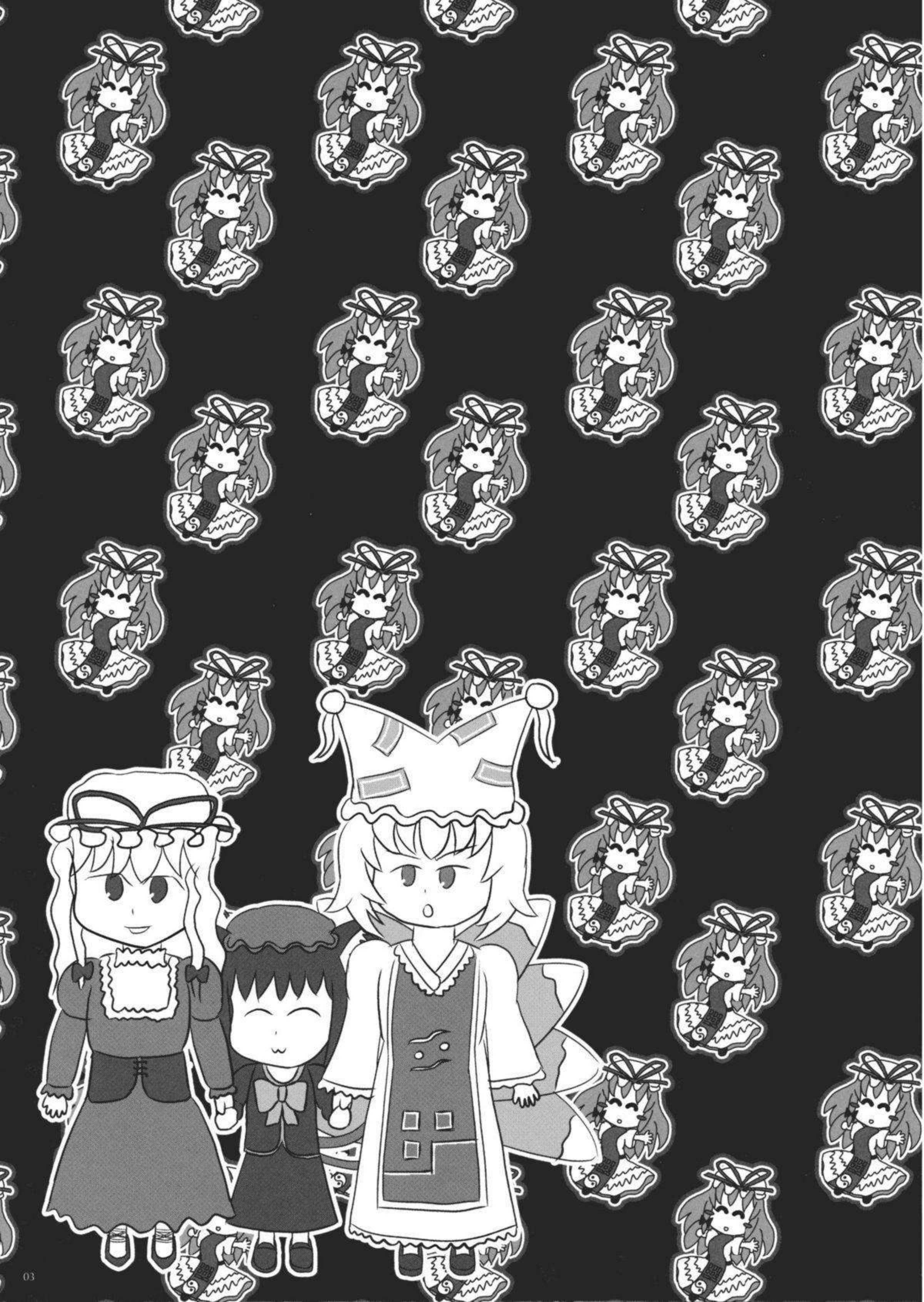
FOR ADULT ONLY

GABRI GABRI 34





老婆祈祷中...



紫様っ
ご飯の用意が
出来ましたよ



何をなさってる
のですか

こたつに
入って
いるの
だけ
だね…



ふとんに
出る隙間が
寒いから
こうやって
暖まってるのよ



あの…紫様？
スキマから
暖かさが
漏れて
ますけど…？



FOR ADULT ONLY

GABRI GABRI 34



やかんと
尻持ちのオマニヤ

まずはおまんこと
アナルにブツとい
ディルドをブチ込ん
男の子達より先に
イッておくの……♡

それからチンポを
2本用意して……♡

あまりセックスに
慣れてないチンポが
飛び切りくっさいの
おた♡

すげえ……

紫さんのまんこ
トロトロに
なってる……

アナルも
だらしなく
緩んでさ……

いやらし
すぎるよ……

ふふ
恥ずかしいわね♥

くびれた所に
チンカスたっぷり
溜まってるわよ♥

それは……
紫さんがシャワー
浴びるなって
いうから……

それじゃ
チンカスたっぷりの
おチンポ
いただきまあふ♥

はあん♥
おしっこくさいわ
このチンポ♥

私がしっかり尿道まで
お掃除してあげる♥

アあああつ!!!

そんな……っ

2本いっぺん
に……!!!

おっ……!!

すいめい……♥

オスのニオイが
プンプン
してる……♪

そんな舌先で
こねられたら……ッ!!

おおっ

紫さんの
ヨダレで
ヌルヌルする
……!!

はあ……っ♡

イッた後のおまんこと
アナルをグチヨグチヨ
されるの最高なお……♡

アハハハ

ねえ……♡
ココに生でチンポを
ハメて頂戴♡

紫さんっ
こんなの絶対
入らないですよ
……!!

壊れるよ
紫さん……っ!!

ふふっ

それは
入れてみての
お愉しみ……♡

お……っ
は……
入る……

入るよ紫さん……
あっ……
キツ……ッ！
これ死ぬ……っ
おっおっおっ……

ああ……
チンポの皮
全部持つてかれる
……!!

あがっ♡
あ……アツ♡

はあア
ア……ツ!!!

紫さんっ 出るッ
イクイクっ……!!
先っほの刺激
強過ぎるーッ!!

俺もイクっ
こんなのダメだっ
もたねえ……っ!!

見てエツ♡
見てエツ♡

大事な所に4本も
入ったわあ……!!
いいっ♡
気持ちいい……♡

んへっ♡

まんことアナルから
子宮押されて
イグううう!!

おんおっ♡
おおっ♡
おおっ♡

うぐっ うう……!!
ケツも締まって
チンポちぎれそ……!!

はあ……!!
はあ……!!

紫さんのまんこ
チンポに絡み付いて
くる……っ

紫さんっ
イク……っ！
生で射精
する……っ！！

ケツ穴も
イクよ……！
精液奥に
出すよ……！！

イツてえ
♥♥

私の事
精液便所に
しへえエエツ！！

はあ……！！
はあ……！！

はあ……っ！

ああん……♥
まんこもケツも
壊れちゃった♥

やあん……
ハメすぎてまた
おまんこ黒く
なっちゃうそう……

でもこれ
たまにの
よね……♥

毎日オナニーで
又いてる
チンポ汁うつつ
子宮にプチまけ
てえええん！！

夏××あふたー。

「ある日のゆかりんの日記より♡」

今日はとっても楽しみにしていた“彼”とのデート♪
夜はいつもみたいにたっぷり可愛がってもらえるかと思うと、
今から胸がドキドキです……♡

ホテルに着いて部屋に入った後、
いきなりスカートをめくってお尻をナデナデされてしまいました。
お尻はエッチな事への期待ですっかり汗ばんでしまっています。

「いい、紫さん。これからお風呂場行ってお尻の中キレイにするからね」

お尻をナデナデ

いつもの様に、彼の持ってきた注射器を使って直腸洗浄をする事になりました。
彼は洗面器にお湯を入れて、適温になる様調節してくれています。
「このくらいかな」
注射器でお湯を吸い上げる音がして、
ヒクヒクしているお尻の穴に、細い先端があてがわれました。
「それじゃ、お湯入れていきますからね」
一気にぬるま湯がきゅううっ、と入り込んできました。

「んん……！」

この、気持ちいい様な、お腹を壊してしまっている様な、
不思議な感触に未だ慣れる事ができません。
また、彼の前でお尻の中を綺麗にするという事が
とてもとても恥ずかしいのです……。

彼もそれをよく知ってるみたいで、
絶対にトイレに行かせてもらえません。
「トイレはダメ！ここで綺麗にして。」
と言う彼のおちんぼがギンギンになっています。
特にこういう属性がある訳ではないけれど、
女の人が恥ずかしさに悶えている姿が大好きなんだそうです……。

お尻にお湯が残っていないの確かめた後は、
粘度の高いローションをたっぷり塗って
アナルプラグを差します。
一回では入りきらないので、何度もアナルに
先っぽを出し入れして、ローションもたっぷり絡めて、
括約筋が柔らかくほぐれてから奥まで差し込みます！

「紫さん、まんこにハマて感じてきちゃったら力入ってプラグ抜けちゃうでしょ。
だから今日はいつもよりブツブツの突っ込みましたからね」
「……はあ、はあ……。これ…… すごくキツイよお……」

呼吸に合わせてプラグをお尻の穴がきゅうきゅうと締め上げます。
その度、私はその太さを感じて、頭がクラクラしてしまいます……。

「太いプラグ気持ちいいでしょ？ 俺も見てて勃ってきちゃった。チンポしゃぶるのお願いしていいですか？」

「あん……っ！」

お尻にプラグが入っていると、とても違和感があります。特に今日はいつもより大きめのを差したから、体を動かす度にピクピク刺激がきてしまいます。

「はい。洗ってないチンポ大好きなんだよね。皮の内側にチンカスたっぷり溜まってるから、しっかり綺麗にしてね」「きゃあっ……」

今日の彼のおちんぽはとっても臭いです。すごく蒸れていて、いやらしい匂いがします。私はこの男の人にしか出せない匂いが大好きで、嗅ぐともの凄くエッチな気持ちになってしまいます。クリトリスが熱くなって、おまんこに早く、早く、硬くなったおちんぽをハメて、ぎゅってして欲しいって思います♥

「んぶっ、んむ…… ンううっ」
「紫さん、チンポ好き？」
「んっんっ、ん……ふっ！ 好き、好きいい、チンポ大好き……♥」
「そんなチンカス美味しそうにねぶって、エロいなあ〜」
「んむう、これえ、この味、大好き、エッチになっぴゃうう、んんん♥」
「いい…… 紫さんの口マンコ気持ちいいよ……」
「見て、チンポがバッキバキになってる」
「ああんっ、ん……っ、んん、んぶうう、はあ、はあ、はア……！」
「凄おい、おちんぽこんな勃起してるう……♥」
「手で触っても動かないくらい、おちんぽが硬く硬く勃起しています。先っぽからは透明のお汁もドクドク溢れてきています……♥」
「……あん……♥ 凄い、こんな硬いの…… ドキドキする……♥」
「この硬いのでおまんこガンガン突かれちゃったら……」
「子宮口を先っぽでグリングリンされて、奥に精液ぶちまけられたら……」
「それを考えると、愛液でおまんこがグチョグチョになってしまいます。」
「紫さん、今日って危険日だよ…… ちょっと待って」

「……だめ、それは着けないで……♥」

「……え？ 今日中だしたら妊娠しちゃいますよ？」

「いいの、生のおちんぽハメて、妊娠させて……♥」

「……ぶう。紫さんのお願いなら、聞かないわけにはいきませんね」

彼が上になって、生の勃起したおちんぽをクリトリスから膣口まで、おまんこの汁をたっぷり絡めて擦り付けてきます。それをされると、おかしくなるくらい気持ちいいのです……♥

「ほら、ほら…… 生チンポにマン汁がたっぷり絡んでるよ……」
ぐちゅ、ぐちゅ、ぐちゅ……っ♥

「ああん、あつ、はあ、はあ、はあ……っ♥」

「生ちんぽ気持ちいい、いいっ、大好きいい……!!!」

「擦られたクリがぶくっ、と膨れて、ピクピクしています。お尻の穴もピクピクして、プラグをきゅうきゅう締め上げています。」

「どう、見える？ チンポでマンズリされてるよ」

「いつも指でしてる時とどう……？」

「やあん、指と全然違うのお♥」

「だめえ、これダメええッ、あん、ああん……っ!!!」

「おまんこが生のおちんぽを早くくわえたがっているのでしょう、さっきから腰が勝手に動いて、膣口をバクバクさせています……」

「どうしたの、さっきから処女膜だったトコがヒクついてるよ……？」

「あんっ、いじわる、わかってるくせにいい……っ、早く、早くしてえ、硬いのしてえええ……!!!」

「私がぎゅううと彼の背中を抱きしめると、おちんぽの先っぽが入り口にクチュ、とあてがわれました。」

「アんっ♥♥♥」

「紫さん…… パイパンにしてるから見えるでしょ？ 生チンポ入ってるトコ」
「あっ、あああ……！！ 入ってる、おちんぼギチギチ入って……えええ……！！！」

大きいアナルプラグのせいで狭くなったおまんこに、
おちんぼが無理矢理ねじこまれていきます。

「お、おおお……っ 狭いトコにマン汁絡んで…… これ……っ」
「ああ、私いい……っ！ こんなはやああ、すぐイク、イっちゃうう……！」
彼が腰を動かすと、狭い所でおちんぼがニユルニユル動いているのが分かります。

「あはっ、はあっ、ああああん……！！
お尻ひっぱられひやああああ……！！！」
「うっ、うっ、プラグの出っ張り引っかかって…… ぐっ……！！！」
「あん、あアア……！ 気持ちいい、いいいんツ！！！」

ぐちゅっ、ぐちゅっ、ぐちゅっ♥

「はあ、はあ、やっぱり生違うわ……
ヒダが先っぽ刺激して……っ」
「あう、ううんっ、分かるよ、おちんぼの感触ちゃんと伝わってるうう……！」
「聞こえる？ マン汁どどん溢れて…… タマにも伝ってる」
おちんぼを出し入れされる度、グチュグチュ、
パンパンといやらしい音が響きます。
腰を打ち付けられる度、彼の体温や、手の力、おちんぼの硬さを感じて、
もっともっと濡れてしまいます。

「うわあ……っ、これ…… プラグ引っかかってマジでヤバいんですけど……」
「はあ、ああ、ダメ、お尻いいい、きちゃうう……！！！」
「紫さん、力抜ける……？ でないと締まって……！」
「そ、そんな事言っただって…… 無理、無理いいい……！」
「はあ、はあ…… 紫さん、これ早いですよ……っ」

「だめっ、だめええ、その角度で突かないでええ、響くの、抜いて、お願いいいい……！」
死ぬっ、死ぬうう、ちんぼらめえええ、壊れりゅううううッ！！！」



ちゅぽんっ、と音がして、
やっとなおちんぽを抜いてくれました。
この時の私はお尻の穴の感度が高すぎて……
もう、おまんこの生ハメでは我慢できなくなっていたのです。

「……ハアハア……。どうしたの紫さん……。痛かったの……？」

「うろうう……！」

「あーあ……。マンコの穴開きっぱなしになって……」

「…… お尻い……。寂しいよ……」

「……？ どうしたんですか？」

彼の腕をさわさわしてみても、全然、気づいてくれません……。

やっぱり、知ってていじわるしてるのかなぁ……。

「お尻が寂しいってどういう事ですか？」

「……っ、いじわるばっかりい……。」

「はっきり言って？」

「……。お尻に……」

おちんぽハメて欲しくなっちゃったのお……。」

「ゴムつき？」

「やあ、やだ……！」

「……じゃあ、こっちも？」

「……生ハメえ……。生でしてえ……」

おちんぽ肛門にズボズボハメてえ……。奥で射精してええ……！！！」

「奥で出しているの？ 後、大変だよ？」

「いい、いいの……！」 一番奥で出してえ……！！！」

「……言っときますけど、凄い量出ますよ。今、一番溜まってるから」

「いい、いいの、濃いの出して……！！！」

「ホント、紫さんは変態だね♥」

「……もうっ、こんなケツ穴にしたのは誰よお……！！！」

彼はにっこり笑うと、私のおでこにチュウして、

プラグをググッ、と引きました。

「いっ……！ いいいいい……！！！」

ぶっ、ぶっ……っとな音がして、プラグが少しずつ抜けていきます……。

「お、おお……♥」

「力抜いて、抜ける時一気に来るから」

「あ、ああああ……！」

お尻の穴に、一番太い所が引っかかりました。

「いい？ 抜けるよ」

「あ、あ、ああああア……。あ、これダメえ、あああアン……！！！！」

ぶぶ…… ぶ…… ぶ……！

ぬぶううんっ♥

「やああ、アアア……！！！ ああああアン！！！！！！」

一気に抜ける時に、背筋がゾクゾクとして、

尿道が思いっきり熱くなってしまいました。

「おーおー、紫さんったらベッドでおしっこ漏らして……」

ここじゃ横になれないですね」

「う、うろううう……！！！」

「わかります？ アナルゆるゆるになって、壊れちゃってますよ」

「あ、そんなああ……」

「じゃ、リクエスト通り今からここにチンポハメるね」

「あうっ！？」

彼がさっきよりもっとギンギンになったおちんぽを押し付けてきました……。

凄く熱くて、これが入る事を考えただけでイッてしまいそうです。

「凄い……。何の抵抗もない、分かる？」

「あ、あああ……。入ってる、あ、ああ、アナル壊れひやってるうう……！！！」

「ほら……。根元まで入った……！」

「あアン……！！！！」

ぬぶぬぶと音がして、

私のゆるゆるのお尻におちんぽが全部入ってしまいました。

「はああ……。気持ちいい、紫さん、動くよ」

「ああ、動いて、気持ちいいトコ擦ってえ……！！！」

にゅぶっ、にゅぶ!
ぱんっ、ぱん、ぱん……!!!

「あアッ、これえ、欲しかったの、お尻でしたかったのおおお……!!!」
「いい? 直腸コスツてるよ、生チンポでズボスポしてるよ……!」
「いいっ、いいイイ……!!!」
「気持ちいいんツ、チンポいいっ、イク、イクッ、いいのおお!!!」
「ほら……! 足上げでハメると…… ゴリゴリに擦れて……」
「あっ、あはっ、ダメえ、ゴリゴリやあ、壊れるツ、あ、ああああアァン!!!」
「ハァハァ……!!!」

「これ、ナカで思いっきり射精していいんだよね……?
紫さんのケツマン犯すよ……!?!」
「して、してえええ、お尻犯して、
精液でお尻洗って欲しいの、お願いいいい……!!!」

「イク、イク、紫さん、中に…… イクっ……!!!!!!」
「きてえ、射精してえええ、私の事もらってえええ、
好き、好き、大好きい、あなたがいいイイイんツ♥♥♥」

びゅく、びゅく、びゅくううう!!!
びく、びく、びく、びく……うっ……!!!

「はあ…… あ…… 紫さん…… いい、
抜いたらいっぱい溢れてくるから……」
「あ……ああ…… いいよ、抜いて……え♥」
お尻の穴がビクビクして、足も腰もガクガクと痙攣が止まりません。
やっぱり、生中だしされると身も心もトロけてしまいます……♥

「抜くよ……」
「あ……♥」
おちんぼを抜くと、中から暖かいのがトロトロと溢れ出しました。
お尻に指を入れてみると、
どれだけ出されたかがよく分かります……♥

「はあ……♥ ごんないっぱい……♥ 嬉しい……♥」

少し休憩タイム♥
お尻の穴に射精されると、後がとっても大変……。
気を抜くと奥に溜まったザーメンが小出しに溢れてくる事があります。
……だから、エッチが終わった後、できるだけ
おトイレで綺麗に綺麗にしておきます……。
……やっぱり、恥ずかしいな。

綺麗になったら、今度は私の番。
ちょっと彼にいじわるしたいのです。

「あれ、紫さん、チンポになんか塗った?」
「うん。いいのが手に入ったものだから♥」
数日前に香霖堂で手に入れた、
これを塗るとおちんぼがギンギンになってしまう、というクリームを
彼のに塗り塗りしました。
例の店主は「……ま、効くか効かないかは、実際試してみないとね」と
言っていたけれど…… どうなのかな。

「……? あれ、何かスースーしますね?」
「そうかな? あ…… 凄く固くなってきた……♥」
クリームをおちんぼにヌルヌル絡めて抜くと、段々大きく、膨らんでいってます。
ぬちゅぬちゅ、いやらしい音。
「どう……? 気持ちいい?」
「んん…… これ、何か先っぽにきますね……」
そういう彼のが、みるみる大きくなって、
射精後とは思えないくらい固くなってきました。
私は、大きくなったおちんぼが大好きで、触っているととてもドキドキできます。
「……すごい…… おちんぼおっさいよ……?」
「紫さん、こんな事までして…… やっぱりまんこにたっぷり欲しいんでしょ?
今日の紫さん、凄く溜まってるのバレバレだよ?」
「えっ」

私の思惑は、いつもこんな感じですぐにバレてしまいます……。

「……もうっ、そんなに言うなら、私が上になるんだからっ」
「はいはい、どうぞ、大好きな硬いチンポですよ」

硬くなったおちんぼの先を入り口に少し入れただけで、
体がビクビクしてしまいます。
これを全部おまんこにズッポリハメちゃうんで……
「んうう……♥」

自分からおまんこに入れる時はいつもこんな感じで、
少しずつ奥に入れては抜いて…… を繰り返して、
徐々に全部を入れていきます。
「あ…… あアァン……っ 入れたあああ……っ」
「お……っ 紫さんのマンコとろとろだ……」

おちんぼを全部入れた後は、
上でゆっくり腰を動かしていきます。
グリグリ思いつき動がすのも気持ちいいけど、
生のは子宮口に先っぽがあたるのがちゃんと伝わるので、
味わう様にゆっくり腰を動かすのがとても気持ちいいです♥

「気持ちいいいいは…… いい、紫さん…… 先っぽコリコリきてる……っ」
「いい？ いいの？ おまんこ気持ちいい……？」
「私も、奥に先っぽの感じ伝わってるよ……♥」
「はあはあ……っ ゆっくりってヤバいよね……」
「うん、激しいのもいいけど、これも気持ちいいよね……♥」

体を倒して、彼とキスします。
ハメたままキスすると、
彼のがとても大きくなっていくのが分かります。
「んむ、んろう……っ キスっていやらしいね……♥」
「……んふ、んん……っ、ある意味、セックスよりもエロいかもね……」
「ハメながらちゅーするの好きい……♥」
「俺も紫さんとキスするの好きですよ……」
「んん、もっと、もっと……♥」

そのうち、彼の腰もぐいぐいと動き始めます。
しかも、子宮口を探す様に、中をヌブヌブと探す様に
おちんぼを出し入れしています。
「紫さん、入り口の出し入れ弱いよね……」
「あっ、あんっ♥」
「待って、もうすぐ子宮口見つかるから」
「あ、あ、あ……！」
「……あ、ココだ」
「ッ……！ あアア……ッ♥」

彼がキュッと力を入れると、おちんぼが急に硬くなりました。
そんな事されたら、子宮口に直に当たっちゃうのに……！
「な、何してるの……っ、それ、何……っ」
「これ、こうすると良く当たるでしょう？」
「やあん、そ、それええ……！！ それされたら……っ」
「ほら？ 紫さん？ さっきみたいにデカ尻ガンガン振って？」
「やん、やあん……！！ だって、そんな事したらあ……」
「子宮口がコスれて、すぐイッちゃうんでしたっけ……？」
「あはアア……！！ そんなの……っ 反則うらうら……！！」
「？ 腰が止まっていますよ？ 動いてあげましょうか？」
「はあ、はあ…… あ……！！ やめて、動かないでえ、
私が……っ 私が動くの……ッ！！」
「そんな事言われたら、余計動きたくなくなります」
「あはアアア……！！」

彼がいじわるに笑って、腰をガンガン、
子宮口を撫で付ける様におちんぼを奥に擦り付けてきます。

「やん、やああ、ちんぽおお、奥うら、あっ、あっ！！！！」
「今日はマンコがまだですもんね、このままたっぶり射精してあげますね」
「んろううら、これ、ずっとくるうらうら……！！」

急に、彼に強い力で私のお尻の肉を掴まれてしまいました。
「紫さん、このデカ尻いいポイントに持ってきてあげる」
「……はあ……！ そ、そんな……の……！！」
「これで子宮口の穴めがけてパッチリ射精してあげられますよ」
「あ、そんな射精されたらあ……っ！！」
私の子宮が、精液を欲しがってピクピクしているのがわかります。
「このまま素直に俺のものになって下さい」
「あっ、そんなあああ、また……ッ 蕩けひやうらうら……！！！！」

彼が腰をグリグリと動かしています。
その度、私の体がピクピクと跳ねます。
こうやって最後は無理矢理されるのが気持ちよすぎて……
快感で死んでしまいそうになります……♥

「あ…… ああ…… イクよ…… 紫さん、いいドコ当たってる……」
「んう、うらうら、硬い、おちんぼ硬いので……イクらうらうら！」
「はあ、はあ、本当に妊娠しているの……？ 紫さん、赤ちゃんできていいの……？」
「いい、いいの……ッ、妊娠……させてえ……！！ 奥にいっぱい出して、子宮にいっぱい……！！」
「……あ、ああ……っ、紫さん……！！ まんこに出すよ……！ 紫さんのまんこに……ッ、精液……っ！！」
「あああ、出してえ、精液っ、妊娠させてえええ……！！！！！！」

「イク、イク……！ う、うらうら……ッ！！」
「あっ、アッ♥ ああああ、ピクピクしてる、出てる、あっ、あっ、イクらうらうら……！！！！」

びゅくっ、びゅらうらうらうら、びゅっ、びゅっ、びゅらうらうら……！！！！
「ああああああアア……♥♥♥♥♥」
「ゆ、紫さん……！」

おちんぼを抜くと、すぐに彼のザーメンが溢れ出てきました。
「……はあはあ……♥ 二回目でも、こんなに出るのね……♥」
一回目よりは薄いけれど、それでも、たっぶりザーメンが
おまんこの中にいっぱい溜まっています。
「うふふ、子宮口でこんなにいっぱい…… 妊娠しちゃうよ……♥」

こうして、
この日の私と彼の蕩けるようなデートは終わったのでした……♥

バアさんだって恋したい☆



Uchi-Hime!

小林由高2冊目の単行本
「うちハメ！」
エンジェル出版様より
好評発売中です♡

GARIGARI34

アレマテオレマ
小林由高

2011年03月13日 初版発行

alemateorema@rinku.zaq.ne.jp
www.rinku.zaq.ne.jp/alemateorema

印刷 マツモトコミックサービス様
www.web-matsumoto.com

alemateorema

かおりさん♡(凄惨修羅場なのでよ!担当)

よしゆこさん♡(一生懸命アシスタント~担当)

ユウコウ♡(引きこもりすぎて、外に出た時ビックリした事にビックリした担当)



www.rinku.zaq.ne.jp/demate@remā

demate@remā.
group 1990
34